

CP-4-Ⅲ-02	<b>医療薬学特別実習</b>	第4学年～ 第6学年前期	必修	13単位
<b>担当者</b>	各卒論教室・研究室・部門・センターの指導教員			
<b>一般目標 (GIO)</b>	<p>薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。</li> <li>・将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。</li> <li>・研究活動を通して、創造の喜びと感動を得るとともに、新しいことを発見する研究の醍醐味を知る。</li> </ul>			
<b>到達目標 (SBOs)</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度)</li> <li>2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度)</li> <li>3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度)</li> <li>4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度)</li> <li>5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度)</li> <li>6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度)</li> <li>7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度)</li> <li>8. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能)</li> <li>9. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。</li> <li>10. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能)</li> <li>11. 実験計画を立案できる。(知識・技能)</li> <li>12. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能)</li> <li>13. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度)</li> <li>14. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度)</li> <li>15. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度)</li> <li>16. 研究の結果をまとめることができる。(技能)</li> <li>17. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能)</li> <li>18. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能、態度)</li> <li>19. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)</li> <li>20. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能)</li> <li>21. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度)</li> <li>22. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度)</li> <li>23. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)</li> </ol>			
<b>受講心得・準備学習等</b>	各卒論教室で与えられた研究テーマに対し意欲的に取り組むこと。準備学習については適宜指示する。			
<b>事後学習・復習等</b>	特別実習を通して培った知識や技能について、よく復習し、課題に対する取り組み方や問題解決へのプロセスを実践できるように努めること。			
<b>オフィスアワー</b>	各卒論教室の設定による。			

### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		実習・演習
回	項目	内容
	各卒論教室・研究室・部門・センターにおいて、それぞれの教員の指導を受ける。	3年後期に配属を認められた卒論教室・研究室・部門・センターに、4年次より正式配属となる。4年次は他の科目の講義・実習・演習以外の時間で、5年次は病院薬局実務実習以外の期間、6年次は前期の講義以外の時間で医療薬学特別実習を行う。研究テーマについては配属された教室・研究室・部門の指示に従い、実験あるいは文献調査等を行い、その成果を卒業論文としてまとめ、発表し、行事予定に従って要旨・論文等を提出する。

<b>成績評価の方法</b>	各卒論教室・研究室・部門・センターにおいて、研究態度、課題に取り組む意欲、プレゼンテーション、論文を総合的に評価する。
<b>成績評価の基準</b>	研究に積極的に取り組み、記録がきちんとまとめられているか、プレゼンテーションの内容が的確で分かりやすいか、論文の内容・表現が的確で、考察がなされているかが主な評価基準となる。それらを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
<b>教科書</b>	随時紹介する。
<b>参考書など</b>	随時紹介する。